

22. 卒業生・修了生への支援活動

1) 再就職や進学・就職・国家試験への支援

看護学部では、在学生に対して、就職・進学・国家試験への支援を3回生から重点目標を設定して取り組んでいる。卒業生に対しても、在学中の学年担当教員と看護研究指導教員を中心に、キャリアアップ支援を継続している。

平成30年度は、第44回高知女子大学看護学会（新人看護者を対象にしたワークショップ「看護の実践を語ることで気づく自己の成長」を企画）や高知県立大学看護学部同窓会への参加を呼びかけた。また、看護研究の成果を学会発表や誌上发表できるように支援した。さらに、キャリアアップのための新たな就職や進学の相談に対しても、メールだけでなく直接面談して相談を受けて支援した。日常的には、就職した施設において、在学生が実習する機会を捉えて卒業生の相談に応じた。国家試験についても、卒業生が受験の必要がある場合は、継続して各種受験手続きの支援、模擬試験受験の支援、学習意欲継続への支援を行った。さらに、それぞれの専門領域の教員が、卒業後5年前後の人を対象にして、大学院進学への相談を実施したり、大学で実施している教育研究活動・地域貢献活動・ケア検討会への参加を促進して、卒業生のキャリアアップ支援を行った。

2) 高知県内の卒業生に対するキャリア支援

高知県内の卒業生に対するキャリア支援に関しては、年間目標に基づき以下の活動を行った。

- ①資料、文献の配布：38件、疾病、病態の理解、レポートの作成に必要な資料の配布を行った。
- ②図書の紹介：5件、疾病、病態の理解、看護実践の参考になる図書の紹介を行った。
- ③技術練習（個人）：7件、点滴交換、固定などの技術練習のために演習室と教材を提供した。
- ④技術練習（集合）：2回、延べ4人、5月と6月に助産領域で分娩介助を中心に集合研修を行った。
- ⑤大学院等のキャリアに関するコンサルテーション：7件、大学院、認定看護師への進学に関するコンサルテーションを行った。

上記には含まれないが、県外在住の卒業生2名が同コンサルテーションにより進学した。

本年度の特徴としては、所属病棟単位での技術教育が充実したようで、技術練習に関するニーズは相対的に低くなった。一方、大学院進学等の将来のキャリア支援に関するニーズが高まる状況にあり、来年度以降の計画をこれに沿ったものとして企画する必要があると考えている。

3) CNS 認定等の支援

看護学研究科博士前期課程では、平成12年3月に1期生が修了して以来、修了後1～2年後に専門看護師の認定試験を受験できるように支援を行っている。大学院修了前に主指導教員は、院生の背景や個別性を尊重し、修了後の資格認定までの計画を院生とともに立案している。修了後は、その計画に沿って定期的に事例検討会や勉強会の開催、コンサルテーション、大学院の特別講義の連絡や講師依頼、共同研究、先輩CNSの紹介などを行い、CNS認定及び認定更新への支援をしている。

平成30年度までに専門看護師コースを修了し、認定試験に合格した専門看護師は、9領域106名であり、研究コースにおいては、看護管理学領域修了後、21名が認定看護管理者の資格を得て、活躍している。平成30年度は、下記のように、がん看護CNS1名、急性・重症患者看護CNS1名、計2名の修了生がCNS認定試験に合格し、専門職者として活動している(表1)。

表1 専門看護師・認定看護管理者認定数

領域	がん 看護	慢性 疾患 看護	急性 ・ 重症 患者 看護	小 児 看護	精 神 看護	家 族 看護	地 域 看護	在 宅 看護	老 人 看護	看 護 管 理	合 計
平成 30 年度	1		1								2
総計	37	3	2	19	19	11	2	10	3	21	CNS:106名 認定看護管理者:21名

4) 看護学部同窓会活動

平成 30 年度、看護学部同窓会は設立 9 周年を迎えた。役員一覧は、表 2 の通りである。

表 2 平成 30 年度同窓会役員

役員名	氏 名	卒業・修了期	所 属
会長	梶原和歌	10 期生	近森病院 顧問
副会長	藤田佐和※1	28 期生	高知県立大学看護学部長
	中野綾美	27 期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38 期生・修士 13 期生・ 博士 18 期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士 7 期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35 期生・博士 9 期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46 期生・修士 12 期	高知県立大学看護学部
会計監査	鶴浜祥子 (平成 30 年 7 月迄)	26 期生	高知市保健所
	野田真由美 (平成 30 年 8 月～)	34 期生	高知市保健所
	矢野智恵	38 期生・修士 1 期生 博士 17 期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25 期生, 修士 5 期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34 期生, 修士 2 期生, 博士 1 期生	高知県立大学看護学部
	川本美香※2	修士 13 期生 博士 18 期生	高知県立大学看護学部

但し、※1：看護学部長、※2：看護学会役員は当て職である、

(1) 平成 30 年度の活動

- ①第 8 回同窓会総会の開催
- ②役員会の開催
- ③講演会（高知女子大学看護学会との共催）
- ④会報（第 17・第 18 号）の発行
- ⑤高知女子大学看護学会への支援

(2) 活動の実際

① 第 8 回同窓会総会の開催

平成 30 年 7 月 22（土）、料亭濱長にて、県内外から同窓生 71 名の参加のもとに開催された。議事では、最初に報告事項として、(1)平成 29 年度活動報告、(2)平成 29 年度決算報告、(3)平成 29 年度会計監査報告があった。また、審議事項として、(1)平成 30 年度活動計画案、(2)平成 30 年度予算案、(3)第 3 期同窓会役員について審議し、承認された。

②役員会の開催

役員会は、3 回開催した。第 1 回役員会は 5 月 14 日に行い、本年度の活動、会報、総会および懇親会の企画、学部生の緊急奨学金貸与等について審議し、役割別年間スケジュールが確認された。

第 2 回役員会は 6 月 21 日に行い、同窓会総会、懇親会、同窓会報第 17 号について審議された。第 3 回役員会は平成 31 年 1 月 7 日に開催され、同窓会報第 18 号、平成 31 年度活動案等について審議された。

③講演会の開催（高知女子大学看護学会との共催）

テーマ：「ケアとキュアの融合の先にある看護技術の社会的評価」

講師：渡邊知映先生（上智大学総合人間科学部看護学科）

時間：10：20～12：00

演会は、7 月 22 日に高知女子大学看護学会との共催で開催された。今回のメインテーマは「変動する世界の中でケアとキュアの融合を刷新する」であり、学会員と一般参加者あわせて 136 名の参加があった。講演では、看護実践を可視化した先にある社会的評価のひとつとして、診療報酬加算のしくみについて、委員会での取り組みも紹介されながらお話いただいた。看護技術が社会的評価をうけるためには、エビデンスの構築や介入研究が必要であること、キュアだけでもケアだけでも患者のアウトカムを達成することは難しく、ケアとキュアの融合と、チームが同じアウトカムに向かって協働し、チームで提供された技術を評価する必要があること、看護実践の質を担保し、質の評価が重要であることについて、ご講演いただいた。学会の参加者からは、「現実を可視化していくことが大切である。マネージャーとしてそこを管理していきたい」「看護実践のアウトカム評価の大切さや評価を行う方法を考えることが重要だと思いました」など、多くの感想が寄せられ、『ケアとキュアの融合』をテーマに、これからの看護のあり方について考える貴重な機会となった。

④会報の発行

平成 30 年度は、第 17 号と第 18 号の 2 回の会報を発刊した。



i. 第 17 号の発行

第 17 号は、第 8 回総会の報告に合わせて平成 30 年 10 月 15 日に発行した。本号では、平成 30 年度同窓会総会報告、同窓会役員紹介、平成 29 年度活動・会計報告・平成 30 年度予算案、第 44 回高知女子大学看護学会報告、看護開発研究会報告、日本家族看護学会第 25 回学術集会報告、看護学部の活動等を掲載した。

7 月 15 日に開催された、高知県立大学看護学部同窓会の大学院部会により運営されている会である看護開発研究会の様子を掲載した。

さらに、9 月 1 日、2 日に開催された日本家族看護学会第 25 回学術集会の様子を掲載した。山崎美恵子氏（5 期生）、梶原和歌同窓会会長から出席に寄せてコメントをいただいた。

ii. 第 18 号の発行

会報第 18 号は、平成 31 年 3 月 30 日に発行した。本号では、平成 30 年度をもって高知県立大学大学院特任教授を退職された南裕子先生（11 期生）から同窓生に向けてメッセージをいただいた。「ようこそ先輩！」では、渡辺雅代氏（16 期生）野中邦子氏（24 期生/修士 1 期生）からメッセージをいただいた。

さらに、グローバルに活躍する卒業生・修了生では、渡部友梨氏（61 期生）福岡雅津子氏（修士 12 期生）、中尾瑞香氏（修士 14 期生）、さらに、今年度 DNGL（共同災害看護学専攻）を修了された西川愛海氏に寄稿していただいた。全国で活躍する卒業生・修了生では、64 期生の斎尾康次氏、花井優実氏、岡崎都佳氏、古井椋子氏の卒業 1 年目の若い同窓会員からもメッセージをいただいた。

また、本号では学生卒業生の活動支援として、国際交流支援について、報告をした。

⑤高知女子大学看護学会との共催

平成 25 年度より、高知女子大学看護学会へ毎年資金支援を行っており、平成 30 年度は、30 万円の支援であった。同窓会発足当時より、高知女子大学看護学会との共催で講演会を開催しており、今後も、両者の連携を図りながら、学術の進化、ネットワークの拡大に努めていく方針である。